

第273回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和6年9月7日(土)
会 場 ステーションコンファレンス東京 5階 (千代田区)
第Ⅰ会場 (503CD)
第Ⅱ会場 (503AB)
第Ⅲ会場 (501A)
第Ⅳ会場 (501B)
PCセンター (501S)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 4～6階
TEL 03-6888-8080

会 長 新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学
猪又 孝元

御 案 内

1. 参加費：会員／非会員 (医師) 3,000円
後期研修医、コメディカル 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。
2. 受付時間：参加受付 8:30-17:55
PCセンター 8:30-17:30
3. 一般演題発表時間：口演 4分、討論 3分
4. Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演 6分、討論 3分)
Student Award：第Ⅰ会場：16:00-16:55
Resident Award：第Ⅱ会場：17:00-17:55
Case Report Award：第Ⅱ会場：16:00-16:55
Clinical Research Award：第Ⅰ会場：17:00-17:55
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 1) 正しい医学用語の使用
 - 2) 発表時間の厳守と態度
 - 3) 考察
 - 4) 質問に対する応答
 - 5) 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
5. その他：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただくかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

託児サービスのご案内：

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。

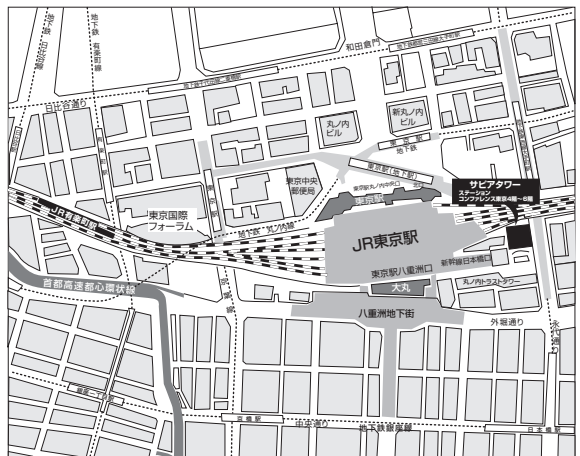
社員総会：地方会終了後、第Ⅰ会場で行います。

(懇親会は5階フロアにて行います。)

次回地方会：第274回地方会は次の通りです。

日時：令和6年12月14日(土)
会場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)
会長：家田 真樹
(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分

八重洲北口改札口 徒歩2分

東京メトロ東西線「大手町駅」B7出口から直結

ご挨拶

第273回日本循環器学会関東甲信越地方会

会長 猪又 孝元

新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 主任教授



この度、第273回日本循環器学会関東甲信越地方会の大会長を拝命いたしました。今回のテーマは、「深根固柢（しんこんこてい）の循環器学—今こそ足元を固め明日を狙う」をテーマに、初秋の東京でみなさまとお会いいたします。昨今の循環器診療の進歩は目覚ましく、カテーテルやデバイスなどによる治療対象は拡大し、結果として現場は細分化が進んでいます。一方で、診療アウトカムとして全人的な標的も求められるようになり、高度技能専門医であってもgeneral cardiologistとしての要求は高まっています。この両極を志向すべき今こそ、「老子」曰く「根（ね）を深くし柢（てい）を固くす」、すなわち、基礎をしっかりと固め、ゆるがぬ知力と技術を身につけねばなりません。

そこで、本会では実地臨床の狭間に潜む論点を深掘りするセッションを意識的に企画しました。レジェンド先生方のメッセージを受け過去から未来を展望し、積年の課題であるベッドサイド心腎連関を症例ベースに掘り下げ、会長教育講演としても心不全診療を総括するなど、新たなプログラム構成にも挑戦いたします。まさに、今どきの循環器診療全体を俯瞰する絶好の1日となることでしょう。

実りの秋に実りある修練や親交の場となりますよう、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、二次元コードより要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。



第273回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和6年9月7日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 5階（千代田区）

会長：新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 猪又 孝元

第I会場		第II会場		第III会場		第IV会場	
8:50	開会挨拶						
9:00	教育セッションI 急性・重症心不全の心腎連関 演者：渡辺 光洋 木下 修 柴垣 有吾 土井 研人	9:00	学術委員会企画セッション 非閉塞性冠動脈疾患 (INOCA) 診断の意義を考える 演者：岡田 興造、北原 秀喜 石井 智大、中村 則人 P8	9:00	一般演題 弁膜症 1 P13	9:00	一般演題 腫瘍 1 P20
10:30	P4	10:00		9:35	一般演題 弁膜症 2 P13	9:30	一般演題 腫瘍 2 P20
10:40	会長教育講演 今どきの心不全管理をアトする 演者：猪又 孝元 P4	10:10	第20回ダイバーシティ・フォーラム 循環器医それぞれのオリジ ナルの生き方・働き方 演者：薬師寺忠幸、粟屋 徹 谷野 紗恵、相澤 達 木田 圭亮 P8	10:05		10:00	一般演題 大動脈 P21
11:10		11:10		10:10	一般演題 心内膜炎 P14	10:35	一般演題 末梢血管/静脈 P21
11:20	ランチョンセミナー1 虚血性心疾患における心臓突然 死予防の現状と課題 ～着用型自 動除細動器 (WCD) への期待～ 演者：浅海 泰栄、岸原 淳 共催：旭化成ゾールメディカル P4	11:20	ランチョンセミナー2 PAD治療と地域連携について 演者：田口 哲也 共催：カネカメディックス P9	10:40	一般演題 心膜 P14	11:10	
12:10		12:10		11:10		11:20	ランチョンセミナー4 インペラの適応、離脱 演者：中田 淳 野本美智留 共催：日本アビオメット P22
12:20	教育セッションII レジェンドに学ぶ 演者：山下 武志 齋藤 滋 伊藤 貞嘉	12:20	研修医セミナー 研修医による公開症例検討会 演者：酒井 亮平 Batgerel Naidankhuu P9	11:20	ランチョンセミナー3 遺伝性ATTRアミロイドーシス ～早期診断・治療の重要性～ 演者：牧 尚孝 共催：Alnylam Japan P15	12:10	
13:50	P5	13:00		12:20	一般演題 心筋炎・心筋症 1 P15	12:20	一般演題 デバイス 1 P22
14:00	デザートセミナー1 サムタスの実践を語る ～よりス ピードが求められる時代の「目 に見える治療」～ 演者：滝村 英幸、佐藤 直樹 共催：大塚製薬 P5	13:10	一般演題 肺高血圧 P9	12:50	一般演題 心筋炎・心筋症 2 P16	12:50	一般演題 デバイス 2 P23
14:50		13:45		13:20	一般演題 心不全 P16	13:20	一般演題 その他 P23
15:00	会長企画セッションI 無症候性心筋虚血にPCIは 必要か？ ～Pros&Cons～ 演者：仁科 秀崇 重城健太郎 P5	14:00	デザートセミナー2 心不全合併の心房細動マネジ メント、本気でどうする？アプレ ーション治療を選択する？ 演者：奥村 恭男 共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン P10	13:50		13:50	
15:50		14:50		14:00	デザートセミナー3 日本人とDOAC「選択とそ の理由」 演者：深谷 英平 共催：第一三共 P17	14:00	デザートセミナー4 「アルブミン尿とCKD早期治療 介入～心腎連関におけるMRAの 新たな展開」 演者：石井 秀樹、佐藤 敦久 共催：バイエル薬品 P24
16:00	Student Award	15:00	会長企画セッションII 今さら聞けない!? アプレーション時 代の、抗不整脈薬の考え方、使い方 演者：村川 裕二 志賀 剛 P10	15:00	一般演題 不整脈 1 P17	15:00	一般演題 虚血性心疾患 1 P24
16:55	P6	16:00	Case Report Award	15:35	一般演題 不整脈 2 P18	15:35	
17:00	Clinical Research Award	16:55	P10	16:15	一般演題 不整脈 3 P18	15:40	一般演題 虚血性心疾患 2 P25
17:55	P7	17:00	Resident Award	16:20		16:20	一般演題 虚血性心疾患 3 P25
17:55	閉会挨拶	17:55	P11	16:55			
18:00	社員総会						

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しください
すようお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）はそれぞれ単位の登録手続きを行っていただく必要がございます。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～17:55（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 8:30～10:00/11:50～13:20（開始30分前から終了30分前まで）

第 I 会場

教育セッション I

9:00-10:30

座長 (聖マリアンナ医科大学薬理学) 木田 圭亮

座長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科先進心肺血管治療学講座) 柏村 健

急性・重症心不全の心腎連関

急性・重症心不全において心臓と腎臓の双方をいかに守るかは長年の課題である。総説と症例検討を通じ、腎臓医や集中治療医とともに実戦での具体策を提案する。

症例提示

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 渡辺 光洋

腎機能障害を伴う重症心不全に対するMCS治療戦略

(埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科) 木下 修

重症急性心不全において腎保護を考える

(聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科) 柴垣 有吾

AKIの集中治療管理

(東京大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学) 土井 研人

会長教育講演

10:40-11:10

座長 (榊原記念病院)

磯部 光章

新薬や治療デバイスにより日々進化する診療現場を踏まえ、脚本書きという観点であらためて今どきの心不全管理を総説する。

今どきの心不全管理をアートする

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

ランチョンセミナー 1

11:20-12:10

共催：旭化成ゾールメディカル株式会社

座長 (東京女子医科大学循環器内科学) 山口 淳一

虚血性心疾患における心臓突然死予防の現状と課題 ～着用型自動除細動器 (WCD) への期待～

急性心筋梗塞症例における突然死一次予防が必要な症例とは？ ～当院データからの報告～

(国立循環器病研究センター心臓血管内科部門冠疾患科・心臓血管系集中治療科) 浅海 泰栄

WCDのトリセツ ～しっかり防ごう心臓突然死～

(北里大学医学部循環器内科学総合診療医学) 岸原 淳

※日本不整脈心電学会が定める『WCD (着用型自動除細動器) 処方医資格に関わる講演』に該当します。

教育セッションⅡ

12:20-13:50

座長（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学）猪又 孝元

レジェンドに学ぶ

本学会のテーマとして深根固柢を掲げるが、新しい時代を迎える循環器病学を鑑み、3名のレジェンドにこれまでを総括し、今後の展望を語っていただく。

診療・研究・病院経営から私が学んだこと

（心臓血管研究所付属病院循環器内科） 山下 武志

あっという間に駆け抜けてきた40年間あまり

（湘南鎌倉総合病院心臓センター循環器内科） 齋藤 滋

一期一会～ Dream, Passion, Challenge and Respect for Peers～

（公立刈田総合病院特別管理者） 伊藤 貞嘉

デザートセミナー1

14:00-14:50

共催：大塚製薬株式会社

座長（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学）猪又 孝元

サムタスの実践を語る ～よりスピードが求められる時代の「目に見える治療」～

「サムタスを用いたDecongestionの進化」

（総合東京病院心臓血管センター循環器内科心臓血管IV科） 滝村 英幸

「時間軸とDecongestionの質を再考する～何を使ってどのように治療すべきか？」

（かわぐち心臓呼吸器病院内科・循環器内科） 佐藤 直樹

会長企画セッションⅠ

15:00-15:50

座長（北里大学医学部循環器内科学）阿古 潤哉

座長（東海大学医学部付属八王子病院循環器内科）吉町 文暢

無症候性心筋虚血にPCIは必要か？ ～ Pros&Cons ～

ISCHEMIAなどの臨床試験を受けて、虚血性心疾患の治療は転換期を迎えている。無症候性心筋虚血の血行再建について、おさえるべきポイントを整理する。

無症候性心筋虚血にPCIが必要なこともある？

（筑波メディカルセンター病院循環器内科） 仁科 秀崇

ナニを根拠にPCI? [無症候性心筋虚血編]

（埼玉医科大学総合医療センター心臓内科） 重城健太郎

座長 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科) 南野 徹
 座長 (防衛医科大学校循環器内科) 足立 健
 審査委員長 (筑波大学医学医療系循環器内科) 石津 智子
 審査委員 (新潟市民病院高度先進医療センター) 尾崎 和幸
 審査委員 (日本医科大学付属病院循環器内科) 岩崎 雄樹
 審査委員 (獨協医科大学心臓・血管内科/循環器内科救命救急センター) 菊地 研

- I-1 左脚ブロック型上方軸のwide QRS頻拍の鑑別を複数のアルゴリズム用いて検証した1例
 (東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部) 畠山 そら
 中田 悠貴、日丸 陽介、森岡 佑太、山田 隆弘、
 岩波 裕史
- I-2 内服歴と心電図波形からピルシカイニド中毒を疑い、後日血中濃度から確定診断に至り救命した高齢女性の1例
 (昭和大学医学部医学科) 中野 来美
 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 間瀬 浩、杉山 正弥、沼尻 祐希、石井 優紀、
 杉山 拓士、谷崎 友香、大村 歩、和田 大輔、
 曾根 浩元、武井 洋介、田代 一真、倉田 征昭、
 森 敬善、小貫 龍也、土至田 勉、磯 良崇、
 江波戸美緒、鈴木 洋
 (昭和大学藤が丘病院集中治療科) 武内 祐貴、佐藤 督忠
- I-3 左室駆出率の保たれた心不全における運動時の右房圧上昇の臨床的意義
 (群馬大学医学部循環器内科) 山村 成慶
 谷 友太、湯浅 直紀、反町 秀美、村上 文崇、
 加藤 寿光、石井 秀樹、小保方 優
- I-4 高血圧患者における慢性腎臓病の合併の有無と心電図で評価した左室肥大と心血管イベントの関連
 (自治医科大学医学部医学科) 高橋 慧
 (自治医科大学内科学講座循環器内科学) 甲谷 友幸、星出 聡、荻尾 七臣
- I-5 心不全Stage別の左室駆出率の経時的変化
 (新潟大学医学部医学科) 中村 理音
 (新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 藤木 伸也、田中 和世、猪又 孝元
- I-6 FFRangioの精度と特徴、Bland and Altman 解析を用いた年齢、性別等を考慮したGW type FFRとの比較検討
 (国際医療福祉大学医学部医学科) 星 昂太郎
 (千葉西総合病院臨床工学科) 林 貞治、渡部 淳
 (千葉西総合病院循環器内科) 三角 和雄
 (国際医療福祉大学医学部循環器内科) 船橋 伸禎

座長 (千葉大学循環器内科学) 小林 欣夫
 座長 (慶應義塾大学医学部放射線科学) 陣崎 雅弘
 審査委員長 (日本医科大学武蔵小杉病院総合診療科) 塚田(哲翁) 弥生
 審査委員 (山梨大学大学院総合研究部内科学講座循環器内科学) 佐藤 明
 審査委員 (上尾中央総合病院心臓血管センター循環器内科) 緒方 信彦
 審査委員 (東京慈恵会医科大学附属柏中央検査部・総合診療部) 吉田 博

I-7 広域医療圏におけるCRT移植後管理の現状報告と包括的外来の必要性の検討

(立川総合病院循環器内科) 原 悠輔
 布施 公一、高橋 稔、岡部 正明
 (柏崎総合医療センター循環器内科) 井田 徹
 (魚沼基幹病院循環器内科) 木村 新平
 (長岡中央総合病院循環器内科) 中村 裕一
 (長岡赤十字病院循環器内科) 藤田 俊夫

I-8 His束ペーシングとの比較からみる当院における至適中隔ペーシング(Optimal Septal Pacing)の有用性

(千葉労災病院循環器内科) 竹内 峻
 (船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科) 内山 貴史、青山 里恵、須藤 洋尚、林 智彦、
 丘 慎清、飯高 一信、岩田 曜、石脇 光、
 沖野 晋一、福澤 茂

I-9 運動負荷心エコー図検査を用いたHFpEF患者の運動負荷時の血圧上昇の機序と予後への影響の解析

(群馬大学医学部附属病院検査部/群馬大学医学部附属病院循環器内科) 村上 文崇
 (群馬大学医学部附属病院検査部) 原田 智成、加藤 寿光
 (群馬大学医学部附属病院循環器内科) 湯浅 直樹、反町 秀美、石井 秀樹、小保方 優

I-10 心電図に内包される心機能低下シグナルはどこにあるのか?人工知能を用いた解明

(自治医科大学循環器内科学部門) 縣 侑子
 牧元 久樹、成田 圭佑、大場 祐輔、興梠 貴英、
 甲谷 友幸、原田 顕治、苅尾 七臣

I-11 奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症における経皮的動脈弁置換術前後の特異的左室心筋仕事量変化の意義

(千葉大学医学部附属病院循環器内科/千葉大学医学部附属病院検査部) 與子田一輝
 佐々木晴香、木下真己子、鈴木 紀子
 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 高岡 浩之、松本 萌、西川 侑成、野口 靖允、
 青木 秀平、鈴木 克也、八島 聡美、小林 欣夫
 (千葉大学医学部附属病院検査部) 川崎 健治、松下 一之

I-12 心膜炎症例での外科的心膜切除術後の病理学所見と術前のスペクトラルCT所見の関連の検討

(千葉西総合病院心臓血管外科) 中山 泰介
 中村 喜次、鶴田 亮
 (千葉西総合病院放射線部) 宿谷 篤
 (千葉西総合病院病理部) 鈴木 正章、柳原 希美
 (千葉西総合病院循環器内科) 三角 和雄
 (国際医療福祉大学市川病院循環器内科) 船橋 伸禎

第Ⅱ会場

学術委員会企画セッション

9:00-10:00

座長（北里大学医学部循環器内科学） 下浜 孝郎

座長（東海大学医学部付属病院循環器内科） 田中 重光

非閉塞性冠動脈疾患（INOCA）診断の意義を考える

冠攣縮性狭心症と冠微小循環障害に関するガイドラインが改定され1年以上が経過したが、その後の各施設での取り組みや、見えてきた課題などについて共有する。

INOCA概論

（横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科） 岡田 興造

INOCA診断における冠攣縮誘発試験を再考する

（千葉大学医学部附属病院循環器内科） 北原 秀喜

心筋架橋を有するINOCAにイバブラジンが奏功した2例

（北里大学病院循環器内科）

石井 智大

（北里大学病院）

箸方 健宏、桂 有智、橋本 拓弥、亀田 良、
南 尚賢、目黒健太郎、下浜 孝郎、阿古 潤哉

初発の胸痛で来院したMINOCAの1例

（東海大学医学部付属病院循環器内科） 中村 則人

第20回ダイバーシティ・フォーラム

10:10-11:10

座長（医療法人社団ゆみの循環器内科）弓野 大

座長（ウエルネストクリニック/株式会社MedtechJP・株式会社ドクターズインク内科）薬師寺忠幸

循環器医それぞれのオリジナルの生き方・働き方

現代の循環器医のキャリアには様々な可能性が広がっている。本セッションでは独自の道を歩む4人の演者がそれぞれの生き方を提示する。ご参加の皆様の参考になれば幸いです。

循環器医それぞれの人生

（ウエルネストクリニック/株式会社MedtechJP・株式会社ドクターズインク内科） 薬師寺忠幸

家族の介護から生まれた新たな働き方 ～医師が介護する際知っておくべきこと、介護者を意識した心不全治療～

（東邦大学医療センター大橋病院循環器内科）

粟屋 徹

原 英彦、飯島 雷輔

循環器医の多様性のある働き方 ―女性のライフステージにあわせて―

（ゆみのハートクリニック渋谷循環器内科）

谷野 紗恵

医師の経済的自由 複業のススメ～不動産賃貸業がもたらした自由な選択肢

（新井クリニック内科）

相澤 達

ネットワーク構築の原点は、海外留学にあり ～ワンクラブマンの生き方・働き方～

（聖マリアンナ医科大学薬理学）

木田 圭亮

ランチョンセミナー2

11:20-12:10

共催：株式会社カネカメディックス
座長（立川総合病院循環器内科循環器・脳血管センター）高橋 稔

PAD治療と地域連携について

CLTI治療と地域連携『当院の救肢治療戦略』

（日本赤十字社深谷赤十字病院循環器科） 田口 哲也

研修医セミナー

12:20-13:00

座長（順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科）飯嶋 賢一

座長（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学）藤木 伸也

ファシリテーター（信州大学医学部循環器内科学教室）南澤 匡俊

ファシリテーター（群馬大学医学部附属病院循環器内科）小保方 優

ファシリテーター（日本医科大学付属病院循環器内科）久保田芳明

研修医による公開症例検討会

「一癖二癖あってなかなか診断治療に難渋した症例」や「エビデンスがなく判断に迷った症例」を通じ、若手医に循環器診療の奥深さを体感していただく。

伝導障害を伴う左室肥大症例

（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学） 酒井 亮平

「労作時息切れの鑑別 ～息切れ外来の症例～」

（群馬大学医学部附属病院循環器内科）

Batgerel Naidankhuu

<ディスカッサー>（新潟県立新発田病院）

中野 諒

<ディスカッサー>（長野市民病院臨床研修センター）

三上 恭弘

<ディスカッサー>（順天堂大学医学部附属浦安病院）

太田 悠介

<ディスカッサー>（日本医科大学附属病院臨床研修センター）

小貫 仁暉

一般演題 セッション1 肺高血圧

13:10-13:45

座長（国際医療福祉大学医学部循環器内科学）田村 雄一

座長（東京大学医学部附属病院循環器内科）新保 麻衣

II-1 トレプロスチニル持続皮下注から吸入に移行できた肺動脈性肺高血圧症の1例

（新潟市民病院循環器内科） 林 由香

田中 孔明、小柳 宣人、柏 麻美、保坂 幸男、

土田 圭一、尾崎 和幸、高橋 和義

II-2 重度右心不全を伴う肺高血圧症に対してチアミンを投与し著明な改善を得られた一例

（慶應義塾大学病院初期研修医） 染谷 孟

（慶應義塾大学病院循環器内科） 森泉 友齊、平出 貴裕、岸野 喜一、白石 泰之、

香坂 俊、家田 真樹

（埼玉病院循環器内科） 井合 渉、松村 圭祐

II-3 薬剤性肺高血圧を発症、被疑薬中止と肺血管拡張薬で改善をみた症例

（新潟県立中央病院循環器内科） 齋藤 広大

西川 尚、昆 和希、中山 純一、内藤 大智、

内田 純也、大島 央、仲尾 政晃

（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学） 猪又 孝元

II-4 重症僧帽弁逆流症による左心性肺高血圧症で前毛細血管性肺高血圧と診断された一例

(日本大学医学部循環器内科)

岩田良太郎
八木 司、瀬戸口俊貴、足田 匡史、黒沼圭一郎、
深町 大介、横山 勝章、松本 直也、奥村 恭男

II-5 右房内巨大血栓を摘出し得た肺血栓塞栓症の一例

(東京都健康長寿医療センター循環器内科)

宮内 佑弥
二見崇太郎、齋藤 義弘、藤本 肇、碓井 伸一、
石川 譲治、原田 和昌

(東京都健康長寿医療センター心臓血管外科)

村田 知洋、乾 明敏、眞野 暁子、河田 光弘

デザートセミナー2

14:00-14:50

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹

心不全合併の心房細動マネジメント、本気でどうする？アブレーション治療を選択する？

(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野)

奥村 恭男

会長企画セッションⅡ

15:00-15:50

座長 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学) 池田 隆徳

座長 (新潟大学医学部保健学科) 池主 雅臣

今さら聞けない！？アブレーション時代の、抗不整脈薬の考え方、使い方

アブレーションが行えない、治療しきれないケースで、クスリの力が必要となる場面がある。アブレーション時代の今だからこそ、抗不整脈薬の正しい使い方を身につけたい。

上室性不整脈へのクスリのオキテ

(村川内科クリニック)

村川 裕二

心室不整脈に対する抗不整脈薬の使い方のコツ

(東京慈恵会医科大学臨床薬理学)

志賀 剛

Case Report Award

16:00-16:55

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊苅 裕二

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 武田 憲文

審査委員長 (東京医科歯科大学循環制御内科学) 笹野 哲郎

審査委員 (まりこどもクリニック港南台小児科) 岩本 眞理

審査委員 (東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一

審査委員 (武蔵野赤十字病院循環器内科) 足利 貴志

II-6 急激な転帰を辿ったacute aortic occlusion(AAO)の1例

(藤沢市民病院循環器内科)

中田 明道
市川 大河、太田 慶介、近藤 愛、井上 満徳、
高野 桂子、前島 信彦、塚原 健吾

II-7 IgG4関連疾患に伴う冠動脈瘤の血栓閉塞により発症した急性心筋梗塞(AMI)の2治験例

(新潟県立新発田病院循環器内科/新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

(新潟県立新発田病院循環器内科)

薄田 英樹
中山 純一、坂口 裕太、和泉 大輔、吉田 剛、
田辺 恭彦

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

池上龍太郎、猪又 孝元

II-8 病々連携から迅速な治療へとつなげることで良好な転帰を得た免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の一例

(新潟市民病院循環器内科) 小柳 宣人
尾崎 和幸、岡村 俊孝、大窪 愛香、内田 純也、
米山晋太郎、柏 麻美、田中 孔明、保坂 幸男、
土田 圭一、高橋 和義

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)
(新潟県立がんセンター新潟病院腫瘍循環器科) 猪又 孝元
大倉 裕二

II-9 発症12年目にATTR心臓アミロイドーシスの診断がついた慢性心不全の一例

(東京都済生会中央病院循環器内科) 谷口 枝穂
長谷川 祐、近藤 匠、渡邊 桂子、藤井 佑樹、
宮本 和享、遠藤 彩佳、平田 直己、鈴木 健之、
高橋寿由樹
(東京都済生会中央病院病理診断科) 廣瀬 茂道

II-10 医原性心房中隔欠損症及び卵円孔開存症のdouble holeによりPlatypnea Orthodeoxia Syndromeを発症した1例

(横浜市立みなと赤十字病院循環器内科/愛知医療センター名古屋第二病院循環器内科) 加藤 祐樹
(横浜市立みなと赤十字病院循環器内科) 岩佐 一輝、安井 由美、河本 梓帆、喜舎場順一、
小田 惇仁、大方信一郎、新井 紘史、村田 和也、
佐川雄一郎、浅野 充寿、志村 吏左、有馬 秀紀、
倉林 学、山内 康熙
(愛知医療センター名古屋第二病院循環器内科) 服部 智貴、吉田 路加

II-11 急性心筋梗塞心停止蘇生後の補助循環管理における高度の肺高血圧に対して一酸化窒素吸入療法が奏功した一例

(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 川村 崇
澁谷 淳介、浅見 慎思、中田 淳、宮地 秀樹、
山本 剛
(日本医科大学付属病院循環器内科) 浅井 邦也
(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 岡 英一郎、細川 雄亮

Resident Award

17:00-17:55

座長 (日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野) 清水 渉
座長 (東京大学大学院医学系研究科心臓外科) 小野 稔
審査委員長 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 新家 俊郎
審査委員 (日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男
審査委員 (自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 藤田 英雄
審査委員 (榊原記念病院循環器内科) 井口 信雄

II-12 非家族性高コレステロール血症の冠動脈疾患患者におけるアキレス腱肥厚と冠動脈疾患重症度の関連

(伊那中央病院循環器内科) 長谷川和輝
小山 由志、小田切久八、大川慶視郎、宮城 拓弥、
酒井 貴弘、北林 浩

II-13 AI解析実装オリジナルデバイスを用いた経時モニタリングによる循環動態変動予測システムの臨床検証

(埼玉医科大学医学部総合診療内科/埼玉医科大学病院臨床研修センター) 渥美 孝郎
(埼玉医科大学医学部総合診療内科) 小林 威仁、時田 一、小川 朋哉、斎藤 雅也、
草野 武、中元 秀友
(北坂戸ファミリークリニック) 内山 昌秋
(埼玉医科大学医学部総合診療内科/埼玉医科大学医学部心臓内科) 飯田慎一郎、山本 啓二

- II-14 急性期心臓MRIで広範な心筋傷害を認めるも慢性期に心機能が回復した急性心筋・心膜炎の1例
 (東京都立多摩総合医療センター循環器内科) 杉本 隼一
 藤井 駿、立石 桜、櫻井進一朗、加藤 賢、
 磯貝 俊明
 (東京都立多摩総合医療センター放射線科) 増川 愛
- II-15 末梢性肺動脈狭窄症10例の診断・治療経過についての後方視的検討
 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 奥野 修平
 森下 圭、波多野 将、皆月 隼、新保 麻衣、
 八木 宏樹、齊藤 暁人、廣瀬 和俊、石井 聡、
 石田 純一、武田 憲彦
- II-16 感染性動脈瘤の自然消退を光干渉断層撮影法(OCT)にて観察し得た一例
 (NTT東日本関東病院循環器内科) 後藤 優佳
 佐藤 慎吾、割澤 高行、田中 大智、松本 卓也、
 中井 大貴、高橋 怜、竹山 誠、松下匡史郎、
 安東 治郎
- II-17 心血管原性院外心肺停止患者における胸骨圧迫に伴う胸部外傷合併の発生頻度とその予測因子に関する検討
 (埼玉医科大学総合医療センター心臓内科) 奥羽 慧
 阿部 拓朗、小形 円香、谷 昂大、河原 勇貴、
 奥田 希子、安藤 敏行、小宮山英徳、石原 嗣郎、
 重城健太郎

第Ⅲ会場

一般演題 セッション2 弁膜症1

9:00-9:35

座長 (ニューハート・ワタナベ国際病院心臓外科) 富田 重之

座長 (かわぐち心臓呼吸器病院循環器内科) 秋山 英一

Ⅲ-1 大動脈弁置換術後遠隔期にpseudoaneurysm of mitral-aortic intervalvular fibrosa(P-MAIVF)を診断した一例

(さいたま赤十字病院循環器内科) 黒坂 英司

大和 恒博

Ⅲ-2 高精度画像診断により僧帽弁形成術後24年後の人工弁輪縫着部位異常が判明した特異的1例

(千葉大学医学部附属病院循環器内科/川崎幸病院川崎心臓病センター) 佐々木晴香

(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 高岡 浩之、小林 欣夫

(川崎幸病院川崎心臓病センター) 石田 和史、高梨秀一郎

Ⅲ-3 SAPIEN3弁の早期パンス形成による弁狭窄に対する外科的大動脈弁置換術の経験

(東京医科大学学生) 沼田 悠平

(東京医科大学病院心臓血管外科) 島原 佑介、藤吉 俊毅、本多 爽、小嶋 一輝

(東京医科大学病院循環器内科) 山下 淳、小松 一貴、笠原 智大

Ⅲ-4 低肺機能症例に対して、術中VV-ECMOを用いて胸腔鏡下MICS-MVPを施行した症例

(順天堂医院心臓血管外科) 山根 吉貴

遠藤 大介、田端 実

Ⅲ-5 高齢者における単独三尖弁置換術と形成術の比較：米国メディケアデータベース解析

(筑波大学附属病院初期研修医) 霜田 智成

(Division of Cardiology, Emory University School of Medicine) 上山 紘生

(東京大学腎臓・内分泌内科) 宮本 佳尚

(Department of Medicine, Icahn School of Medicine at Mount Sinai, Mount Sinai Beth Israel) 渡邊 淳之

(Division of General Internal Medicine, Cedars-Sinai Medical Center) 五反田紘志

(Division of General Internal Medicine and Health Services Research, David Geffen School of Medicine at UCLA) 津川 友介

(Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School /

Division of Cardiology, Montefiore Medical Center, Albert Einstein College of Medicine) 工野 俊樹

一般演題 セッション3 弁膜症2

9:35-10:05

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 林田健太郎

座長 (自治医科大学環境予防医学講座) 市原佐保子

Ⅲ-6 二尖弁大動脈弁狭窄症の術後に胸腺腫合併赤芽球癆を発症した一例

(昭和大学藤が丘病院臨床研修センター) 松本 真弥

(昭和大学藤が丘病院循環器内科) 間瀬 浩、宮田 貴之、大村 歩、亀田 俊吾、

曾根 浩元、辻内 美希、土至田 勉、磯 良崇、

江波戸美緒、鈴木 洋

(昭和大学江東豊洲病院心臓血管外科) 上野 洋資、山口 裕己

Ⅲ-7 心臓超音波検査で評価困難な偏心性逆流の大動脈弁閉鎖不全症(AR)に対し、心臓MRIが有効であった1例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院臨床研修センター) 佐戸 優希

(SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科) 鮫島 雄祐、渡邊 宏哉、横森 広樹、齋藤理香子、

齊藤 翔太、北野 奨真、矢部 顕人、武中 宏樹、

根本 尚彦、安齋 均

Ⅲ-8 生体弁機能不全に伴う重症大動脈弁閉鎖不全症に対してvalve in valve TAVIを施行し救命し得た一例
(心臓血管研究所付属病院) 藤原 七菜
岸 幹夫、嘉納 寛人、松野 俊介、加藤 裕子、
上嶋 徳久、及川 祐二

Ⅲ-9 超高齢の重症大動脈弁狭窄症の予後を検討した上でTAVIを実施した一例
(獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科/獨協医科大学埼玉医療センター心臓血管外科) 田村 洋平
(獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科) 石川 哲也、森 香穂子、華シンセイ、越川 優里、
板橋 裕史、田口 功
(獨協医科大学埼玉医療センター心臓血管外科) 鳥飼 慶、戸田 宏一

一般演題 セッション4 心内膜炎

10:10-10:40

座長 (国際医療福祉大学三田病院循環器内科) 大門 雅夫
座長 (東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 橋本 英伸

Ⅲ-10 脳梗塞を契機に診断されたメチシリン耐性表皮ブドウ球菌による感染性心内膜炎に対してLZDが奏功した一例
(筑波大学附属病院循環器内科) 小林 駿太
沼田るり子、町野 智子、石津 智子

Ⅲ-11 経カテーテル大動脈弁置換術後の人工弁への感染性心内膜炎を背景とした、疣贅塞栓による急性心筋梗塞の一例
(昭和大学藤が丘病院循環器内科) 山内 彰人
土至田 勉、田代 一真、亀田 俊吾、沼尻 祐貴、
佐藤 督忠、手塚 隆弘、江波戸美緒、鈴木 洋

Ⅲ-12 敗血症性塞栓症を反復する肺動脈弁位感染性心内膜炎に肺動脈弁置換術を施行した1例
(信州大学医学部附属病院循環器内科) 寺島 雄大
能見 英智、鈴木 翔、小口 泰尚、加藤 太門、
三枝 達也、海老澤聡一朗、岡田 綾子、
桑原宏一郎

Ⅲ-13 感染性巨大冠動脈瘤の破裂後に心タンポナーデとならず、感染性胸部大動脈瘤の食道穿破で死亡した一剖検例
(SUBARU健康保険組合太田記念病院) 齊藤 翔太
根本 尚彦、横森 広樹、渡邊 宏哉、北野 奨真、
鮫島 雄祐、矢部 顕人、武中 宏樹、安齋 均

一般演題 セッション5 心膜

10:40-11:10

座長 (獨協医科大学心臓・血管内科/循環器内科) 豊田 茂
座長 (順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科) 相川 忠夫

Ⅲ-14 末梢静脈圧併用の運動負荷心エコーが滲出性収縮性心膜炎の診断に有効であったMimic HFpEFの一例
(群馬大学医学部附属病院循環器内科) 湯浅 直紀
小保方 優、村上 文崇、反町 秀美、加藤 寿光、
石井 秀樹

Ⅲ-15 ミノキシジル内服の副作用と考えられた心嚢液貯留の1例
(埼玉病院循環器内科) 安藤 昂志
田中 宏明、玉置 博之、間瀬 太朗、井合 渉、
栗原 和人、磯田 徹、丹羽 直哉、佐藤 篤志、
鶴見 昌史、小野 智彦、松村 圭祐

Ⅲ-16 開心術後の心膜癒着により、左室自由壁破裂を保存加療で経過を見ることができた1例
(総合病院国保旭中央病院循環器内科) 速水 康成
榎田 俊一、宮地浩太郎、早川 直樹、平野 智士

Ⅲ-17 乾酪様僧帽弁輪石灰化の1例
(山梨県立中央病院循環器内科) 石川諒太郎
佐野 圭太、牧野 有高、矢野 利明、秋山裕一郎、
渥美真生子、鮎沢 晶、宮原 徳也、梅谷 健
(山梨県立中央病院心臓血管外科) 中島 雅人、津田 泰利、横山 毅人

ランチョンセミナー3 11:20-12:10 共催：Alnylam Japan株式会社
座長 (帝京大学医学部内科学講座循環器内科) 横山 直之
遺伝性ATTRアミロイドーシス～早期診断・治療の重要性～

『循環器内科から診るATTRvアミロイドーシス～診断の意義～』
(自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 牧 尚孝

一般演題 セッション6 心筋炎・心筋症1
12:20-12:50

座長 (杏林大学医学部付属病院循環器内科) 河野 隆志
座長 (虎の門病院循環器センター内科) 小宮山知夏

Ⅲ-18 周産期に発症した全身性エリテマトーデス関連心筋炎の一例
(那須赤十字病院循環器内科) 高山 紗和
青柳 正英、金井 理晃、坂田 知久、齋藤 史哉、
岩松 浩一、小泉 愉、景山 倫也、大口 真寿、
井上 晃男
(獨協医科大学病院心臓血管・循環器内科) 豊田 茂

Ⅲ-19 特徴的なエコー所見を呈した劇症型心筋炎の一例
(済生会川口総合病院循環器内科) 菅原 洋平
渡邊正之介、長柄希実子、門脇 拓、中尾 優、
高木 厚

Ⅲ-20 超急性期のECPELLA管理による心保護効果をマルチモダリティで検討した劇症型心筋症の一例
(日本大学医学部医学科) 阿古 夏実
(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 八田 拓海、小嶋 啓介、村田 伸弘、奥村 恭男

Ⅲ-21 ECPELLAとステロイド投与で急性期管理を行った新型コロナウイルスによる劇症型心筋症の一例
(佐久医療センター循環器内科) 笠原 優樹
橘 賢廣、伊藤 黄、近澤 優太、丸山 周作、
長谷川智也、柳澤 聖、南野 安正、木村 光、
矢崎 善一

一般演題 セッション7 心筋炎・心筋症2

12:50-13:20

座長 (立川総合病院循環器内科) 布施 公一
座長 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座) 加藤 隆生

Ⅲ-22 心臓サルコイドーシスによる致死性不整脈合併の重症心不全に対してステロイドパルス療法が奏効した一例

(自治医科大学卒後臨床研修センター) 窪田那々子
(自治医科大学内科学講座循環器内科学部門) 佐藤 雅史、斉藤 俊祐、大場 祐輔、澤城 大悟、
清水 勇人、船山 大、原田 顕治、荻尾 七臣

Ⅲ-23 アルコール離脱期にQT延長によって再発性Torsades de pointes(TdP)を生じたアルコール性心筋症の一例

(広尾病院循環器科) 横関 文弥
新井 智之、本間 正直、砂川 昌隆、津野 航、
水沼 吉章、佐々木高史、鯨岡 裕史、山岡広一郎、
笠野 健介、吉田 精孝、高橋 正雄、北條林太郎、
土山 高明、深水 誠二

Ⅲ-24 虚血性心筋症疑いの精査後に心アミロイドーシスの診断に至った一例

(平塚共済病院) 中田 光宥
大西 祐子、小林 一士、岩井 慎介、荒木 恵子、
秋吉 基光、飯谷 宗弘、羽生 佳弘、吉川 宏、
岡澤 紘子、新井 亮太

Ⅲ-25 心臓リハビリテーションを継続しICD植え込みの適応から外れた特発性拡張型心筋症の一例

(柏崎総合医療センター循環器内科) 岩崎 壮史
井田 徹、岩崎 康展

一般演題 セッション8 心不全

13:20-13:50

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 瀧本 英樹
座長 (東京医科歯科大学循環制御内科学) 杉山 知代

Ⅲ-26 洞性頻脈を伴うHFworEF症例に対してCPAPとイバブラジンが有効であった1例

(高崎総合医療センター心臓血管内科) 高橋 伸弥
飯塚 拓巳、佐藤新之介、瀬田 博貴、大駒 直也、
柴田 悟、羽鳥 直樹、小林 紘生、村田 智行、
太田 昌樹、福田 延昭、広井 知歳

Ⅲ-27 Valsalva洞動脈瘤と大動脈弁閉鎖不全症を伴う心不全を来した原発性アルドステロン症に集学的治療をした1例

(東京女子医科大学病院卒後臨床研修センター) 富島 有希
(東京女子医科大学病院循環器内科) 城谷 翔太、神林 敬悟、曾根麻衣子、菊池 規子、
鈴木 敦、山口 淳一
(東京女子医科大学病院心臓血管外科) 服部 将士、市原 有起、新浪 博

Ⅲ-28 心室中隔穿孔に対する手術まで、IMPELLA CPで十分な待機期間を確保することが出来た1例

(獨協医科大学病院心臓・血管内科/循環器内科) 小手川太郎
和久隆太郎、鈴木立二郎、井上 莉里、橋本 涼太、
石田 和俊、廣瀬 優、米澤 泰、古藪 陽太、
西野 節、金谷 智明、佐久間理吏、豊田 茂

Ⅲ-29 HFpEF患者の運動耐容能と、臨床的背景・予後の関係
(群馬大学医学部附属病院循環器内科) 湯浅 直紀
小保方 優、村上 文崇、反町 秀美、加藤 寿光、
石井 秀樹

デザートセミナー3 14:00-14:50 共催：第一三共株式会社
座長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 大槻 総
日本人とDOAC『選択とその理由』
(北里大学医学部循環器内科学) 深谷 英平

一般演題 セッション9 不整脈1
15:00-15:35
座長 (新潟市民病院循環器内科) 保坂 幸男
座長 (総合守谷第一病院循環器内科) 遠藤 優枝

Ⅲ-30 経カテーテル的大動脈弁置換術後に房室接合部頻拍を認めた一例
(群馬県立心臓血管センター循環器内科) 上羽 卓
吉村 真吾、紺野 健一、菅野 幸太、近藤 侃、
田中 俊次、児玉亜希子、増山 大樹、松尾 佑治、
佐々木健人、西内 英、三樹 祐子、中村 紘規、
内藤 滋人

Ⅲ-31 心腎症候群による心タンポナーデと合併したピルシカイニド中毒の一例
(さいたま市立病院) 細川 藍
勝木 俊臣、今枝 昇平、中澤 直美、藤澤 大志、
(なかじま内科クリニック) 神吉 秀明
中嶋 一晶

Ⅲ-32 原因不明のQT延長症候群、torsade de pointesに対してメキシレチンが著効した一例
(東京歯科大学市川総合病院循環器内科/慶應義塾大学医学部循環器内科) 関根 乙矢
(慶應義塾大学医学部循環器内科) 矢野 修平、姫野優貴弘、山下 修平、山岡 広季、
井部 進、西山崇比古、勝俣 良紀、木村 雄弘、
高月 誠司、家田 真樹
(慶應義塾大学医学部循環器内科/平塚市民病院循環器内科) 三山 寛司

Ⅲ-33 失神繰り返す徐脈性不整脈に対しネオフィリンが有効であった超高齢症例
(東京通信病院循環器科) 富満 悠葵
一戸 能麿、松木あゆみ、山中 哲雄、東谷 勉昭、
深津 徹
(東京医科大学病院循環器内科) 里見 和浩

Ⅲ-34 完全右脚ブロックに左脚中隔枝の2:1ブロックの合併を認めた心電図波形の検討
(新潟万代病院循環器内科) 田村 真

一般演題 セッション10 不整脈2

15:40-16:15

座長 (横浜南共済病院循環器内科) 鈴木 誠
座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 吉村 真吾

Ⅲ-35 局所細動周期の短い領域への通電が有効であった発作性心房細動の一例

(新百合ヶ丘総合病院循環器内科)

田仲 明史
高橋 良英、清川 篤、福村 健太、西尾 祥郎、
工藤 侃、原 果里奈、秋元 耕、福島 琢、
櫻井 馨
笹野 哲郎

(東京医科歯科大学病院循環器内科)

Ⅲ-36 心房細動初回治療時にBiatrial tachycardiaを認めた未修復心房中隔欠損症の症例

(群馬県立心臓血管センター)

松尾 佑治
西内 英、中村 紘規、上羽 卓、児玉亜希子、
田中 俊次、増山 大樹、吉村 真吾、佐々木健人、
粕野 健一、内藤 滋人

Ⅲ-37 漏斗胸の関与が疑われた心肺停止蘇生後の1例

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

加藤 淳
大槻 総、赤川 理恵、鈴木 尚真、井神 康宏、
長谷川裕紀、池主 雅臣、猪又 孝元

Ⅲ-38 COVID-19ワクチン接種の関与が疑われた体位性頻脈症候群の一例

(東京大学医学部附属病院循環器内科)

石渡 麻衣
神馬 崇宏、大島 司、山形研一郎、石田 純一、
網谷 英介、藤生 克仁、波多野 将、武田 憲彦

Ⅲ-39 著明心筋壁肥厚+心筋梗塞、心室細動でICD後、下壁梗塞領域をslow conductionで旋回する心室頻拍類
回発生例

(千葉西総合病院循環器内科)

春木 匠悟
新田 正光、中島 博、三角 和雄

(千葉西総合病院放射線部)

宿谷 篤

(国際医療福祉大学医学部市川病院循環器内科)

船橋 伸禎

一般演題 セッション11 不整脈3

16:20-16:55

座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 中村 紘規
座長 (荻窪病院循環器内科) 宗次 裕美

Ⅲ-40 左室心外膜側起源の心室期外収縮に対してケミカルアブレーションが著効した1例

(AOI国際病院循環器内科)

白井 康大
川端美穂子、米内 竜、鎌田 龍明、川島 朋之、
前田 真吾、平尾 見三

(横浜みなと心臓クリニック)

沖重 薫

(東京医科歯科大学循環器内科)

笹野 哲郎

Ⅲ-41 嚙下誘発性心房頻拍に対してOmnipolar mapping technologyにて起源を同定しアブレーション治療しえ
た1例

(獨協医科大学病院心臓・血管内科/循環器内科)

安宅威久男
南 健太郎、飯田圭太生、井上 弘貴、齋藤 郁太、
増山 大樹、北川 善之、中島 敏明、豊田 茂

Ⅲ-42 成人期に指摘された促進性心室固有調律(AIVR)に対してカテーテルアブレーションを行い治療し得た1例

(川口市立医療センター循環器科) 鈴木 奨
林田 啓、渡辺明日香、増田 光、笹 優輔、
庄司 泰城、宮川 真継、須貝昌之助、渥美 渉、
池田 敦、立花 栄三、國本 聡

(日本大学病院循環器内科) 磯 一貴
(日本大学医学部附属板橋病院循環器内科) 奥村 恭男

Ⅲ-43 僧帽弁峡部に存在した副左心耳から、アブレーションによる穿孔を発症し、開心術にて救命し得た稀な一例

(山梨大学医学部附属病院循環器内科) 川村 碩人
黒木 健志、朝比奈千沙、田中 裕也、須藤 洸司、
渥美真生子、鮎沢 晶、武井 俊樹、市川 優真、
江口 実佑、山田 亮太、堀越 健生、吉崎 徹、
渡邊 陽介、植松 学、小林 剛、中村 和人、
中村 貴光、佐藤 明

(山梨大学医学部附属病院心臓血管外科) 加賀重亜喜、中島 博之

Ⅲ-44 重症心筋虚血のVF stormに対してLMT-PCIと緊急アブレーションで救命しえた一例

(横須賀共済病院研修医) 梅津 葵
(横須賀共済病院循環器内科) 張 峻模、大久保健史、荒井峻太郎、小山 拓人、
松本 拓巳、齊藤 一平、益本 寛之、山口 雄大、
伊藤 諒、矢野 弘崇、菱刈 景一、川口 直彦、
中島永美子、村井 典史、田中 泰章、疋田 浩之、
高橋 淳
(東京医科歯科大学病院循環器内科) 笹野 哲郎

第IV会場

一般演題 セッション12 腫瘍1

9:00-9:30

座長 (新潟県立がんセンター新潟病院腫瘍循環器科) 大倉 裕二
座長 (群馬大学医学部附属病院循環器内科) 天内 士郎

IV-1 肺動脈血栓塞栓症として紹介された肺動脈肉腫の1例

(横浜南共済病院循環器内科)

柳原 奈桜
山口 正男、池田 博、清水 厚哉、酒井 瑛子、
三須 彬生、立石 遼、加藤 信孝、島田 博史、
鈴木 秀俊、清水 雅人、藤井 洋之、鈴木 誠
(東京医科歯科大学病院循環器内科) 笹野 哲郎

IV-2 オシメルチニブによるがん治療関連心機能障害をきたした一例

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

古瀬 博規
萱森 裕美、猪又 孝元
(長岡中央総合病院循環器内科) 田川 実、中村 裕一

IV-3 肺動脈塞栓症の原因として血栓塞栓と腫瘍塞栓の鑑別を要した一例

(日本医科大学千葉北総病院循環器内科)

中嶋 翼
柴田 祐作、谷 建斗、中村 広一、岡田 泰司、
渡久地 陸、新井 俊貴、小林 典之、合田 浩紀、
高圓 雅博、栗原 理、小林 宣明、高野 雅充

IV-4 右第2、3指有棘細胞癌を背景として肺塞栓症を発症した一例

(秀和総合病院循環器内科)

木村 文香
後藤 亮、保田惇ノ介、山川 祐馬、中村 浩章、
萩元 宣彦、安達 進

一般演題 セッション13 腫瘍2

9:30-10:00

座長 (川口市立医療センター循環器科) 國本 聡
座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 立石 和也

IV-5 巨大右房粘液腫の1例

(榊原記念病院心臓血管外科)

長嶺 嘉通
御子柴晴樹、岩倉 具宏

IV-6 不整脈のコントロールに難渋した肺癌の心筋転移の一例

(東京医科大学病院循環器内科)

小川 雅人
富士田康宏、中島 悠希、手塚 絢子、佐々木由佳、
山下 淳、小菅 寿徳、里見 和浩

IV-7 画像所見より左房粘液腫を疑い外科的摘除術を施行するも病理学的に左房内血栓と診断された一例

(筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院)

中谷 敦
酒井 俊介、小林 大輝、小林 駿太、仲野 晃司、
安部 悠人、外山 昌弘
(県北医療センター高萩協同病院) 渡辺 重行
(筑波大学附属病院) 石津 智子

IV-8 若年で発見された左心系原発心臓腫瘍の一例

(新潟県立中央病院研修医)
(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

岩崎 春香
久保田直樹、関谷 祐香、池上龍太郎、大久保健志、
保屋野 真、猪又 孝元

一般演題 セッション14 大動脈

10:00-10:35

座長 (東京慈恵会医科大学心臓外科) 國原 孝
座長 (北里大学医学部総合診療医学) 北里 梨紗

IV-9 大動脈弁輪拡張と重症大動脈弁逆流にSTEMIを合併しIgG4関連疾患が疑われた一例

(立川総合病院循環器内科)
(立川総合病院心臓血管外科)
(立川総合病院病理診断科)

深澤 洸樹
那須野暁光、高橋 稔、北澤 仁、藤田 聡、
布施 公一、佐藤 光希、岸 翔平、太田 雄輔、
末永 慎吾、西田 耕太、山崎 祐輔、秋葉 降介、
岡部 正明
浅見 冬樹、吉井 新平、山本 和男
鈴木 利光

IV-10 急速拡大した高安動脈炎の胸腹部大動脈瘤に対して人工血管置換術を施行した1例

(榊原記念病院心臓血管外科)

石堂 耕平
角 康平、尹 亮元、中原 嘉則、岩倉 具宏

IV-11 早期PCIとPCPSによるbridge治療が有効であった左冠動脈主幹部閉塞を伴う急性A型大動脈解離の一例

(東京慈恵会医科大学医学部心臓外科)

小城 雅貴
石割 圭一、辻本 貴紀、有村 聡士、高木 智充、
前田 恵、一原 直昭、益澤 明広、松村 洋高、
儀武 路雄、長堀 隆一、國原 孝

IV-12 心不全を契機に診断された膠原病に合併した無症候性異型大動脈狭窄症の一例

(山梨大学医学部循環器内科)

高瀬 聡之
植松 学、川村 碩人、堀越 健生、須藤 洸司、
江口 実佑、朝比奈千沙、山田 亮太、吉崎 徹、
渡邊 陽介、黒木 健志、小林 剛、中村 和人、
中村 貴光、佐藤 明

IV-13 急速に拡大した大動脈周囲膿瘍による感染性大動脈瘤に対して二度のTEVARを施行した一例

(日本医科大学付属病院循環器内科)

平山 浩章
塚 宏一、古澤 佳明、浅見 慎思、星加 りさ、
渡邊 将央、藤本 雄飛、野間さつき、浅井 邦也

一般演題 セッション15 末梢血管/静脈

10:35-11:10

座長 (湘南鎌倉総合病院循環器科) 飛田 一樹
座長 (杏林大学医学部循環器内科) 舟橋紗耶華

IV-14 心血管疾患を繰り返した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例

(国立国際医療研究センター循環器内科)

福田 泰生
和田 瑞貴、久保田修司、中川 堯、榎本 善成、
岡崎 徹、山本 正也、原 久男、廣井 透雄

IV-15 Buerger病による重症上肢虚血を呈した左上腕動脈完全閉塞病変に対する経総大腿動脈アプローチ血管内治療

(総合高津中央循環器内科) 中西 亨
宮本 明、山内 靖隆

IV-16 薬剤抵抗性の中枢型深部静脈血栓症に対し血管内治療が奏功した一例

(東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 田中 大晴
土橋慎太郎、相川 博音、菊島 朋生、小島 至正、
佐々木英人、久武 真二、天野 英夫、藤野 紀之、
中西 理子、木内 俊介、池田 隆徳

IV-17 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄に対して経皮的肺静脈形成術が有効だった一例

(昭和大学医学部内科学講座循環器内科部門) 黒部紗英子
山田真美子、後閑 俊彦、中村 友哉、猪口孝一郎、
福岡 裕人、辻田 裕昭、塚本 茂人、浅野 拓、
新家 俊郎

IV-18 シェーグレン症候群合併特発性腎動脈解離の診断にPET-CTが有用であった一例

(昭和大学病院循環器内科) 増永 裕輔
谷澤 宏樹、樋口 聡、新井 脩平、高井 優希、
新家 俊郎

ランチョンセミナー4

11:20-12:10

共催：日本アビオメット株式会社

座長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

インペラの適応、離脱

(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 中田 淳
(埼玉医科大学国際医療センター心臓内科) 野本美智留

一般演題 セッション16 デバイス1

12:20-12:50

座長 (昭和大学江東豊洲病院循環器内科) 丹野 郁

座長 (がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科) 上原 雅恵

IV-19 ペースメーカー植え込み後5年でペーシング不全による徐脈性心不全で受診したリード穿孔の1例

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 鈴木 裕子
山本 純平、清水 貴之、浅見 雅子、中村啓二郎、
飯島 雷輔、原 英彦、中村 正人

IV-20 ペースメーカー留置5年後に右心室穿孔を来した1例

(済生会新潟県央基幹病院) 渡邊 達
中村 彰、宮北 靖

IV-21 ペーシング不全がセーフティコアモードによって引き起こされた症例

(北里大学医学部循環器内科学) 山口 瑛
小林 周平、矢島 大治、深谷 英平、阿古 潤哉

IV-22 経皮的左心耳閉鎖療法中にデバイスに付着する可動性血栓を認めた2例

(群馬県立心臓血管センター循環器内科) 田中 俊次
佐々木健人、中村 紘規、上羽 卓、児玉亜希子、
増山 大樹、松尾 佑治、吉村 真吾、西内 英、
粕野 健一、三樹 祐子、内藤 滋人

一般演題 セッション17 デバイス2

12:50-13:20

座長 (杏林大学循環器内科) 副島 京子
座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 大門 道子

IV-23 僧帽弁形成術後に肺動脈内に遺残した一時的心外膜リードに対して、経カテーテル的抜去に成功した症例

(東京医科歯科大学病院循環器内科) 松本 龍元
梅本 朋幸、菅野 義典、池ノ内 孝、松田 祐治、
後藤健太郎、西村 卓郎、米津 太志、宮崎 晋介、
前嶋 康浩、笹野 哲郎

IV-24 ループ状に癒着した幼少期留置経静脈リードに対し、内科的抜去が困難であった一例

(水戸済生会総合病院循環器内科/筑波大学医学医療系循環器内科) 須藤 雄太
(筑波大学医学医療系循環器内科) 飯岡 勇人、山崎 浩、小川孝二郎、石津 智子
(筑波大学医学医療系心臓血管外科) 加藤 秀之、平松 祐司

IV-25 ICDリード感染に対して、エキシマレーザーと右肋間開胸での外科的リード抜去術を併用した1例

(榊原記念病院心臓血管外科) 矢野 敦之
角 康平、尹 亮元、中原 嘉則、岩倉 具宏
(榊原記念病院循環器内科) 井上 完起、関口 幸夫

IV-26 CRT-D移植後の感染性心内膜炎に対し一期的に三尖弁疣贅除去術・経静脈的リード抜去術を施行した一例

(立川総合病院循環器内科) 櫻澤実のり
布施 公一、北澤 仁、高橋 稔、岡部 正明
(立川総合病院心臓血管外科) 山元 奏志、岡本 祐樹

一般演題 セッション18 その他

13:20-13:50

座長 (日本医科大学循環器内科) 浅井 邦也
座長 (聖路加国際病院救急科・救命救急センター) 羽田 佑

IV-27 うっ血性心不全を契機に診断に至った肺動静脈奇形の一例

(武蔵野赤十字病院循環器内科) 高熊 朗
足利 貴志、野里 寿史、永田 恭敏、李 哲民、
金子 雅一、宮崎 亮一、三澤 透、長瀬 将、
堀江 知樹、照井 麻央、加地 大悟、小田中勇樹、
大平 麻貴、松田 和樹、吉光寺直哉、小井土文香、
黄 惠、馬場理沙子

IV-28 心室内血栓を含めた全身の多発血栓症を生じ、プロテインC欠乏症を認めた鬱血性心不全の一例

(長岡中央総合病院循環器内科) 田川 実
古瀬 博規、中村 裕一

IV-29 心筋生検後の心タンポナーデに対し直接作用型第Xa因子阻害薬中和剤の使用により外科的治療を回避しえた1例

(日本大学医学部循環器内科) 佐々木 潤
大角 彰仁、磯 一貴、八木 司、深町 大介、
松本 真明、横山 勝章、松本 直也、奥村 恭男

IV-30 巨大冠動脈、脳動脈瘤を合併したIgG4関連疾患の一例

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 久保田直樹
大久保健志、池上龍太郎、保屋野 真、猪又 孝元

デザートセミナー 4

14:00-14:50

共催：バイエル薬品株式会社

座長（信州大学医学部循環器内科学教室） 桑原宏一郎

「アルブミン尿とCKD早期治療介入～心腎連関におけるMRAの新たな展開」

「2025年問題を目前に控えて～循環器疾患の展望～」

（群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学） 石井 秀樹

「非ステロイド型ミネラルコルチコイド受容体（MR）拮抗薬の特徴を理解し臨床に活かす ～慢性腎臓病治療でなぜMRブロックが必要か～」

（国際医療福祉大学塩谷病院/国際医療福祉大学医学部腎臓内科） 佐藤 敦久

一般演題 セッション19 虚血性心疾患1

15:00-15:35

座長（横浜市立大学医学部循環器内科学） 日比 潔

座長（水戸ブレインハートセンター循環器内科） 洲上 薫

IV-31 冠動脈ステント挿入後治療遅延を血管内視鏡にて確認し得たST上昇型重急性心筋梗塞の一症例

（国際医療福祉大学病院三田病院循環器内科）

木村 茂樹

藤井 寛之、山口 幸宏、磯部 更紗、岩澤 仁、

田村 雄一、大門 雅夫、合屋 雅彦

IV-32 光干渉断層法および血管内視鏡で観察した特発性冠動脈解離の1例

（新潟市民病院循環器内科）

米山晋太郎

加藤 晃帆、大窪 愛香、原 悠輔、小柳 宣人、

柏 麻美、林 由香、田中 孔明、保坂 幸男、

土田 圭一、尾崎 和幸、高橋 和義

IV-33 骨髄増殖性疾患の既往のある冠動脈疾患患者の血管内イメージングにて特徴的な所見を呈した2例

（土浦協同病院循環器内科）

下里 光

金地 嘉久、白井 英祐、長嶺 竜宏、上野 弘貴、

瀬戸口実玲、左山 耕大、渡邊 崇弘、角田 恒和

（東京医科歯科大学循環制御内科学）

米津 太志、笹野 哲郎

IV-34 腹腔鏡下根治的腎摘除術のために抗血小板薬を中断し心肺停止をきたした超遅発性ステント内血栓症の1例

（イムス東京葛飾総合病院循環器内科）

永井 海渡

小松 宏貴、今嶺衣理香、日置 紘文、進藤 一紘、

白濱 尚治、仲村 佳典、横山 健、朴沢 英成

IV-35 2枝同時閉塞の重急性ステント血栓症を発症した特発性血小板減少性紫斑病の一例

（NTT東日本関東病院循環器内科）

金澤 賢司

佐藤 慎吾、割澤 高行、田中 大智、松本 卓也、

中井 大貴、高橋 怜、竹山 誠、松下匡史郎、

安東 治郎

一般演題 セッション20 虚血性心疾患2

15:40-16:15

座長 (三井記念病院循環器内科) 田邊 健吾
座長 (横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 花鳥 陽平

- IV-36 2枝の慢性完全閉塞を有する重急性心筋梗塞患者に対し衝撃波血管内破石術が有効であった一例
(済生会横浜市東部病院循環器内科) 藤井陽太郎
小林 範弘、本宮 寛人、谷中 夏海、村井 篤弥、
瀬戸長雄介、深川 知哉、岸田登志彦、山口 航平、
水澤 真文、堤 正和、毛利 晋輔、伊藤 良明
- IV-37 右冠動脈の石灰化結節・高度石灰化病変に対して、OASとRotablatorの併用が有効であった1例
(山梨赤十字病院循環器内科) 川澄 宏
野村 康介、正司 真、鈴木 芳和
- IV-38 高度石灰化病変を拡張後に閉塞した側枝を、Tip-detection ADRを用いて真腔を捉えることに成功した一例
(聖隷横浜病院心臓血管センター) 河合 慧
長谷川和喜、仙波 貴之、中島 啓介、乗松 東吾、
新村 剛透、芦田 和博
- IV-39 多量の血栓を伴う急性心筋梗塞に対してパーフュージョンバルーンが有効であった一例
(杏林大学医学部付属病院循環器内科) 岡本 陽
泉 圭一、浦田 翔一、渡部 晃佑、永松 佑基、
三浦 佑介、石橋 洋平、三浦 陽平、福士 圭、
舟橋紗耶華、斉藤 竜平、小山 幸平、副島 京子
- IV-40 金属アレルギーを有する狭心症患者における石灰化病変に対しステントレスPCIを施行した1例
(東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部) 竹内 秋乃
中田 悠貴、日丸 陽介、森岡 佑太、山田 隆弘、
岩波 裕史

一般演題 セッション21 虚血性心疾患3

16:20-16:55

座長 (新潟県立新発田病院循環器内科) 田辺 恭彦
座長 (昭和大学江東豊洲病院循環器内科) 佐藤 千聡

- IV-41 右冠動脈起始異常症に冠攣縮性狭心症を合併したと考えられた一例
(虎の門病院循環器センター内科) 松下 友哉
山口 徹雄、藤原 秀臣、森瀬 昌裕、大森 奈美、
伊東 秀崇、小宮山知夏、播磨 綾子、西山 信大、
太田 光彦、藤本 陽、児玉 隆秀
- IV-42 難治性冠攣縮性狭心症に対し漢方薬が著効した一例
(日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 小林 綺音
中野 博之、寺門 誠雄、橘 貴大、國分 裕人、
笹本 希、菅原 一樹、齋藤 恒徳、小谷英太郎
- IV-43 急性心筋梗塞と脳梗塞の同時発症で治療順序の決定に苦慮した一例
(聖マリアンナ医科大学医学部循環器内科) 伊藤 伸悟
古賀 将史、関口 将大、瀧澤 栞、川越 康仁、
甲斐 貴彦、栗田 真吾、石橋 祐記、田邊 康宏、
明石 嘉浩

IV-44 亜急性心筋梗塞に対するカテーテル治療後に左室前壁に仮性瘤を生じた一例

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科)

有上 周佑

飯島 雷輔、井出 志穂、能戸 辰徳、佐藤 学、

粟屋 徹、豊田 康豪、橋本 剛、林 典行、

中村啓二郎、原 英彦

(東邦大学医療センター大橋病院循環器疾患低侵襲治療学講座)

中村 正人

IV-45 急性冠症候群を発症した高LP(a)血症の一例

(川崎幸病院)

板倉 大輔

大西 隆行、渡邊 一平、山本 周平、原田 修平、

門間 周、和田 真弥、中嶋 昭浩、三友 悟、

保科 瑞穂、安藤 智、高橋 英雄、齋藤 直樹、

佐々木峻輔、福富 基城、羽鳥 慶、中村勝太郎、

福永 博、三浦 史晴、中村 淳

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都新宿区笹岡町43 新神楽坂ビル2F 有限会社ビジョンブリッジ内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、支部規程第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(副支部長)

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

- 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
- 支部長に事故あるとき、又は支部長が別の支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。
- 副支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を順守しなければならない。

(支部役員)

第5条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

4. 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
5. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条

2. 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC講習会担当幹事1名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事1名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 支部事務局担当幹事ならびにJCS-ITC担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第8条

2. 支部規程第10条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より15日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の3項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65歳以下で7年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去5年間に3演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

(地方会会長)

第9条

2. 支部規程第11条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より15日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自

己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。

5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。
10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第10条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第11条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第12条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。

10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めたとおりとする。

(JCS-ITC 講習会)

第13条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）

11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第14条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

令和5年10月1日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携

2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施

3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

